

小中学校の適正配置基本方針に関する地域懇談会 次第

- 1 開 会
- 2 学校適正配置の検討状況について
 - (1) これまでの検討経過
 - (2) 基本方針（素案）
 - (3) 今後の検討スケジュール
- 3 意見交換
- 4 閉会

(配付資料)

資料1 検討経過

資料2 日立市立学校適正配置基本方針（素案） 概要版

資料3 今後の検討スケジュール（案）

日程等（全会場で同じ内容を説明します。）

開催日	開始時間	会 場
10月16日（月）	午後 2時	日立市役所（3階）304・305号会議室
10月19日（木）	午後 6時	仲町交流センター
10月21日（土）	午前10時	豊浦交流センター
	午後 3時	油縄子小学校 多目的室
10月23日（月）	午後 2時	大久保交流センター（台風のため11/29へ）
10月24日（火）	午後 6時	河原子交流センター
10月30日（月）	午後 6時	水木交流センター
10月31日（火）	午後 2時	金沢交流センター
11月 1日（水）	午後 2時	久慈川日立南交流センター
11月 6日（月）	午後 6時	十王交流センター
11月 7日（火）	午後 2時	中里交流センター
11月 9日（木）	午後 6時	宮田交流センター
	午前10時	久慈交流センター
11月11日（土）	午後 3時	滑川交流センター
	午後 6時	日高交流センター
11月14日（火）	午後 6時	日高交流センター
11月17日（金）	午後 6時	大みか交流センター
11月22日（水）	午後 6時	成沢交流センター
11月29日（水）	午後 6時	大久保交流センター

■ 検討の経過（検討委員会等の開催状況）

	開催時期	検討委員会 *	その他	内 容
平成 28 年度	11月上旬	第1回		学校適正配置検討の背景と検討の進め方
	11月下旬	第2回		市内小中学校の視察 宮田小学校・助川中学校
	11月 ～12月		意識調査	「小中学校の適正規模に関する意識調査」 小中学校の保護者及び18歳以上の一般市民、教職員に対する意識調査 (約7,000人 回収率70.7%)
	12月中旬	第3回		学校視察を踏まえた意見交換
	1月下旬 ～2月上旬		地域懇談会 (第1回)	学校適正配置に関する意見を伺う懇談会 本庁・支所管内(7か所)で開催
	2月下旬	第4回		意識調査結果の中間報告、地域懇談会の結果報告、基本方針の骨子、その他意見交換
平成 29 年度	4月下旬	第5回		学校の適正規模や配慮事項についての意見交換
	7月下旬	第6回		基本方針素案について検討
	8月下旬	第7回		基本方針素案について検討
	10月中旬 ～11月下旬		地域懇談会 (第2回)	基本方針素案に関する意見を伺う懇談会 市内各所(17か所)で開催

* 検討委員会：日立市立学校適正配置検討委員会。学識経験者、保護者の代表、地域活動団体の代表、学校関係者などで構成し、市立学校の適正規模や適正配置などについて検討を行う。

学校の適正配置について いっしょに考えてみませんか。

資料 2

日上市立学校適正配置基本方針（素案）

概要版

1

検討の背景

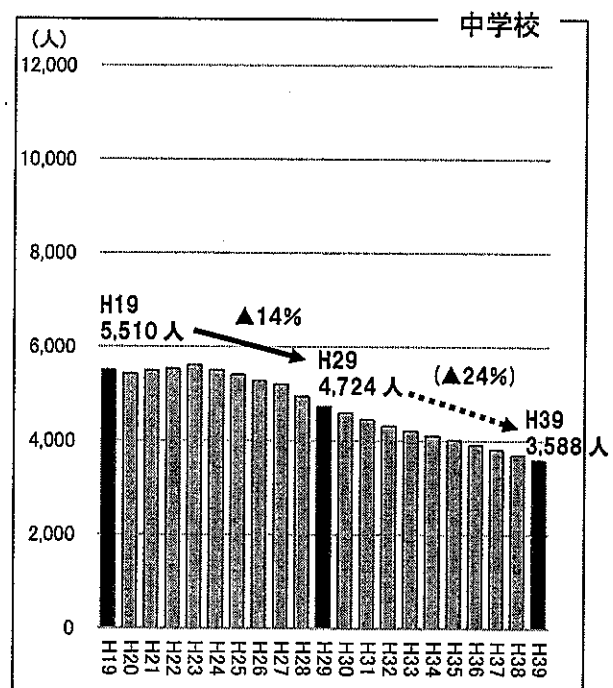
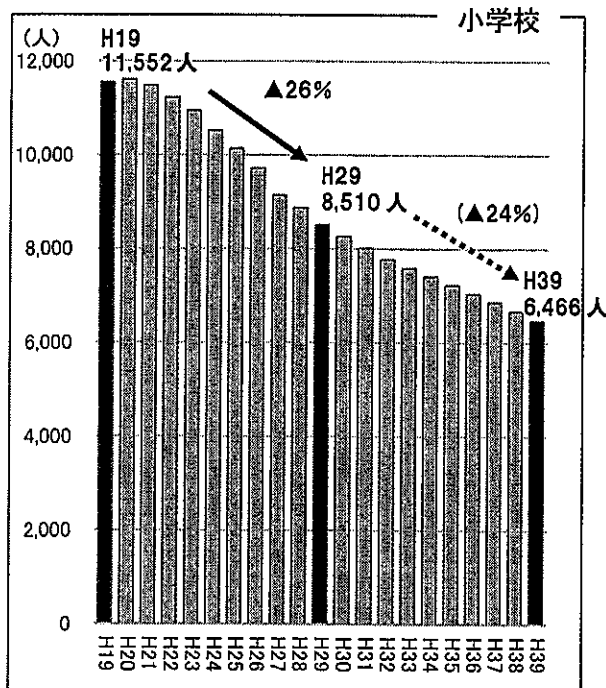
近年、人口減少や少子化を背景に、小中学校において児童生徒数や学級数が減少する学校小規模化が進行しています。

義務教育の9年間は、大人へと成長する、或いは、人としての土台を作る大切な時期であることから、子どもたちが知識や学力だけでなく、コミュニケーション能力や、多様な価値観、社会性、豊かな人間性などをバランスよく身に付けることが重要です。

学校の小規模化には、教員の目が行き届き指導が充実するなどの良い面がある一方で、人間関係が固定しやすく、子ども同士の幅広い交流や多様な意見に触れる機会が少なくなるなど、様々な課題も指摘されています。

日上市においても、学校小規模化の傾向が今後も続くものと予想される中で、「学習環境の基盤となる学校の適正規模の維持」という課題に直面しています。

日上市の児童生徒



2

適正な学校規模について

(1) 基本的な考え方

学校は、子どもたちの確かな学び、豊かな心、そして健やかな体を育む教育の基盤となるものです。子どもたちが集団の中で、切磋琢磨しながら学習し、社会性を高めるといふ学校教育の目的を達成するためには、本来、一定の児童生徒数が確保されていることが望ましいと考えます。

また、教育機会均等の視点から、学校規模を標準化することを目指す必要があります。

社会性を育む視点



- 子どもたちが幅広い人間関係の中で、互いに学び合い成長できるよう、クラス替えができる学校規模が望ましい。
- 中学校では、部活動を中心とした課外活動で得られる達成感や社会性も重要であるため、生徒のニーズに応じた多様な課外活動が実施できる学校規模が望ましい。
- また、中学校卒業後の様々な環境下で新たな人間関係を築く力を育成するために、より多くの人と関わることが重要との視点から、各学年の人数又は学級数が小学校よりも多い方が望ましい。

指導体制を

充実する視点

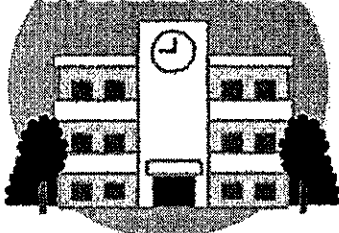


- 学級担任制の小学校は、同学年の学級間で教員同士が相談、研究、協力ができるように、少なくとも各学年2学級を確保することが望ましい。
- 教科担任制の中学校は、各教科に常勤教員を配置でき、かつ、主要5教科に複数教員が配置できる(※) 少なくとも各学年3学級が望ましい。

※中学校における学校規模別教科ごとの教員配置数（平成29年度の茨城県の例）

区分	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技術	家庭
各学年2学級 (全体で6学級)	1人	1人	2人	2人	1人	1人	1人	1人	1人	-
各学年3学級 (全体で9学級)	2人	2人	2人	2人	2人	1人	1人	1人	1人	1人

学校を運営する視点



- 教員が子どもたちと向き合う時間を確保できるように、一定の教員数を確保し役割を分担することで教員一人が担う負担を軽減するとともに、教員が出張や研修で学校を不在にする場合でも、代替りの教員による授業が組みやすいように、少なくとも各学年2学級の学校規模が望ましい。

(2) 市民アンケート、地域懇談会、検討委員会からの主な意見

● 小学校は、幅広い人間関係づくりやクラス替えができるなどの理由から、1学年当たり「2学級から3学級」程度がよい。

● 中学校は、クラス替えができることや部活動の選択肢が増えることなどの理由から、1学年当たり「3学級から4学級」程度がよい。

● 小規模校には課題があり、ある程度の規模が必要であるが、学級規模は、教員の目が行き届き、きめ細かな指導ができるなどの理由から少人数が望ましい。



(3) 適正な学校規模（日立市の基準）

小学校

クラス替えができる各学年2学級以上

中学校

クラス替えができ、かつ、主要5教科に複数教員が配置できる各学年3学級以上

3

適正な学校規模を確保した場合の効果

文部科学省によると、既に学校規模の適正化に取り組んでいる他の自治体の事例から、おおむね次のような点が期待できるとされています。

<p>児童生徒への直接的な効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 友人が増える。男女比の偏りが少なくなる。 ● 多様な意見に触れる機会が増える。 ● 社会性やコミュニケーション能力が高まる。 ● 切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲が向上する。 ● 進学に伴うギャップが緩和される。
<p>指導体制・方法等への効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 多面的な観点で指導できるようになる。 ● 授業で多様な意見を引き出せるようになる。 ● 習熟度別指導など多様な指導形態が可能となる。 ● 教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まる。 ● 一定の児童生徒数確保で、特別支援学級が開設できる。

4

取組に当たっての留意事項

■ 配置バランス

児童生徒の居住分布に応じたバランスの取れた学校配置を進めます。

■ 通学時の安全等の確保

通学時の安全確保や、体力的・精神的な負担を念頭に、通学距離及び通学手段に考慮した学校配置を進めます。

■ 地域への配慮

検討は、地域住民の十分な理解と協力を得られるように丁寧に進めます。

■ 校舎の安全確保

子どもたちの安全を第一に、耐震補強や老朽化対策などの整備が必要な学校は優先的に検討します。

■ 学校の新たな「かたち」づくり

「地域とともにある学校づくり」や「小中連携強化のための体制づくり」に努めます。

5

適正配置計画の策定

学校ごとの適正規模を維持し、適正配置を推進するための具体的な方策を明らかにするため、この基本方針に基づいて、今後、(仮称) 日立市立学校適正配置計画を策定していきます。

参 考 资 料

■児童生徒数及び学級数（H29.5.1 現在）

小学校		児童数(人)	学級数(通常の学級)
1	中里小	25	4
2	山部小	31	4
3	東小沢小	32	3
4	中小路小	143	6
5	仲町小	146	6
6	油繩子小	194	7
7	河原子小	206	7
8	久慈小	265	9
9	諏訪小	288	12
10	成沢小	300	11
11	大みか小	300	11
12	金沢小	318	12
13	滑川小	344	12
14	会瀬小	345	12
15	塙山小	348	12
16	宮田小	380	12
17	助川小	403	13
18	水木小	405	12
19	坂本小	455	16
20	豊浦小	491	16
21	日高小	504	16
22	大沼小	513	16
23	大久保小	537	18
24	田尻小	562	18
25	楡形小	920	29
特別支援学校(小学部)		55	
計		8,510	294

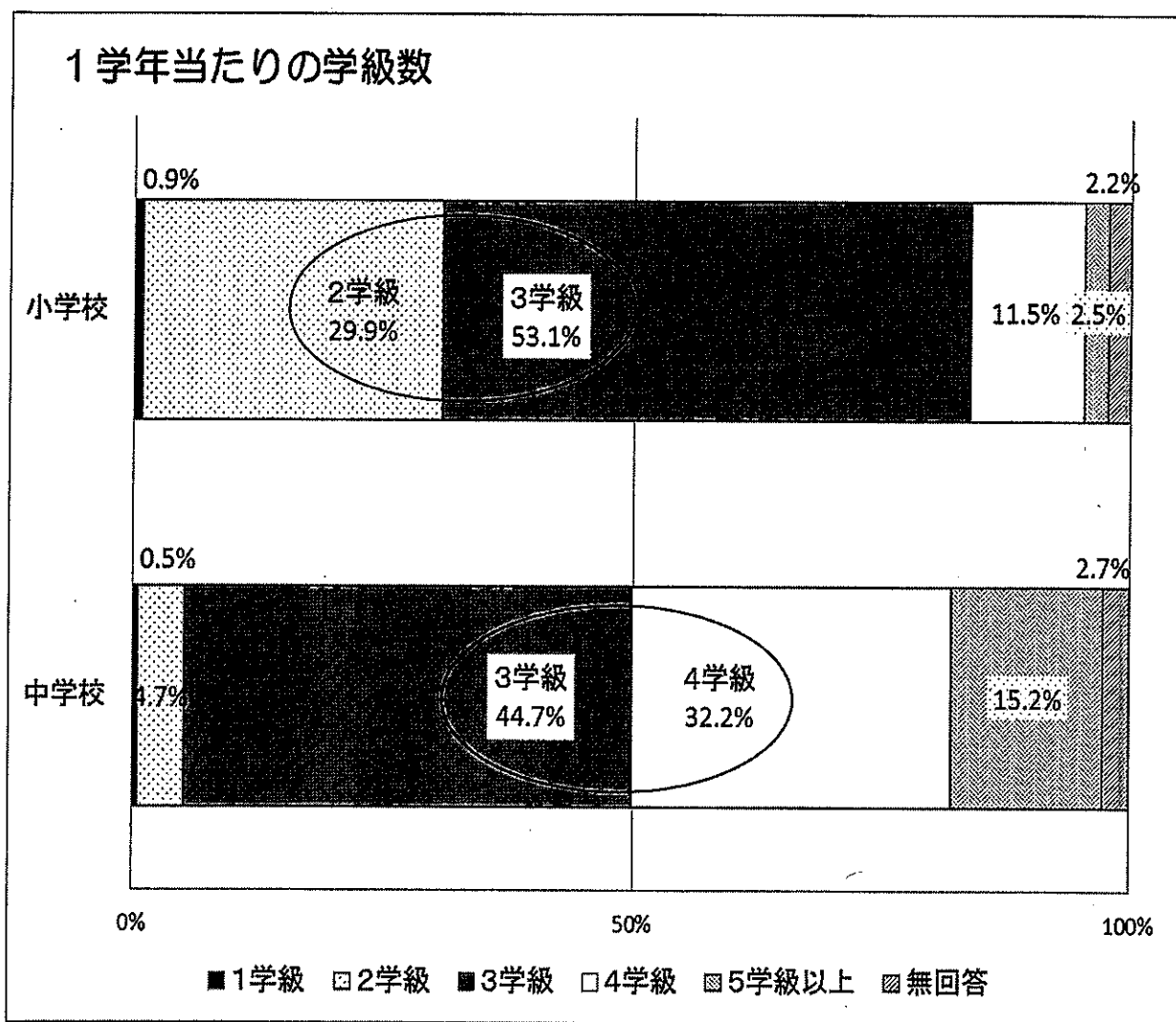
中学校		生徒数(人)	学級数(通常の学級)
1	中里中	20	3
2	平沢中	134	5
3	河原子中	169	6
4	台原中	214	6
5	坂本中	219	7
6	助川中	263	9
7	豊浦中	272	9
8	久慈中	275	8
9	駒王中	322	9
10	滑川中	399	14
11	多賀中	408	11
12	日高中	414	13
13	十王中	460	14
14	大久保中	544	16
15	泉丘中	577	16
特別支援学校(中学部)		34	
計		4,724	146

合計		13,234	440
----	--	--------	-----

■小中学校の適正規模に関する意識調査結果（抜粋）

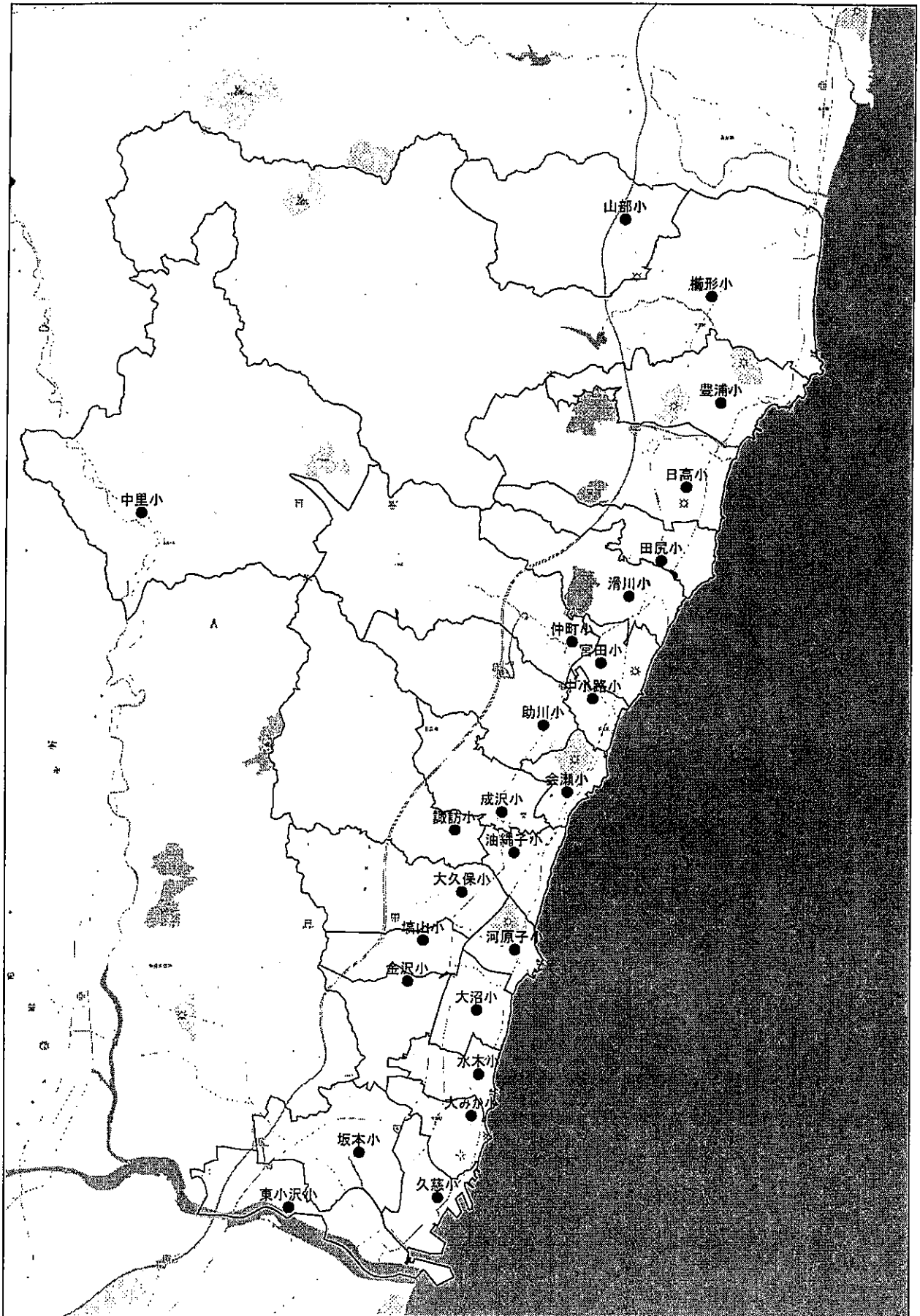
学校規模（学級数）に関する設問
 問11 1学年当たりの学級数は、どの程度がよいと考えますか。

- 小学校では、「3学級」が最も多く、次いで「2学級」となっている。
- 中学校では、「3学級」が最も多く、次いで「4学級」となっている。

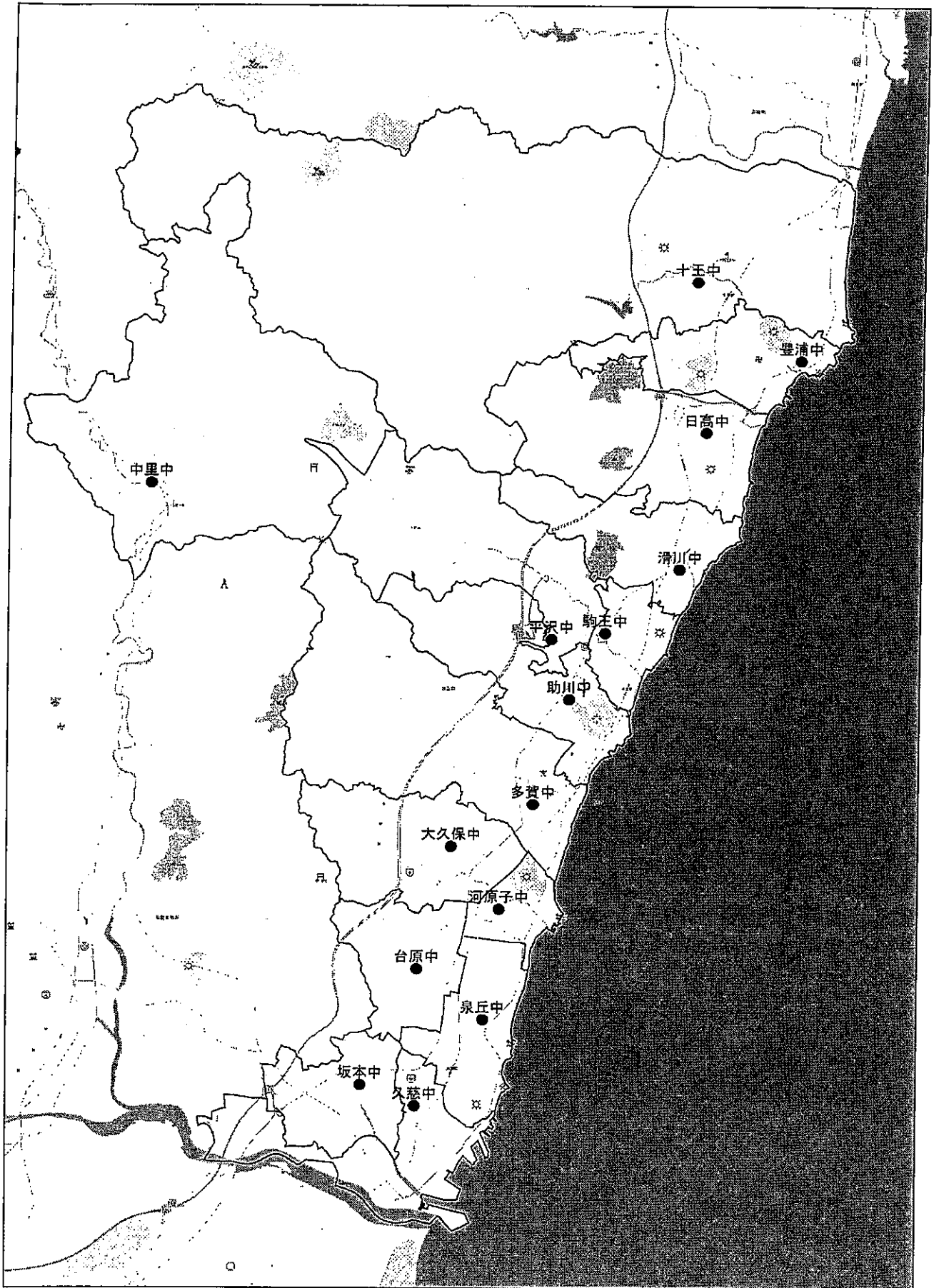


■小中学校の位置図（学区エリア入り）

(1) 小学校



(2) 中学校



■今後の検討スケジュール（案）

時 期		内 容
平成 29 年 度	10月中旬 ～11月下旬	地域懇談会（第2回） パブリックコメント （基本方針素案に関する意見募集）
	3月下旬	基本方針の策定
平成 30 年 度	4月	基本計画の検討
		地域懇談会（第3回） （基本計画（素案）に関する地域懇談会）
		パブリックコメント （基本計画（素案）に関する意見募集）
	3月下旬	基本計画の策定

